RoomOS 26.6および26.7を実行しているWebex Roomデバイスでリモートカメラプリセットコントロールが失敗する

内容

問題

RoomOS 26.6および26.7を実行している複数のCisco Codec ProおよびRoom Bar Proデバイスで、リモートカメラプリセット制御が失敗する。Web UIまたは開発者APIを使用してカメラプリセットを呼び出そうとすると、次の問題が発生します。

- Web UIに「Could not change selected main source.エラー： t.filterは関数ではありません。('t.filter(function(t){var n;return(null===(n=null==t?void 0:t.CameraControl)||void 0===n?void 0:n.CameraId)===e})'では、't.filter'は未定義です)。
- 開発者APIを介したリモートプリセットアクティベーションは断続的に機能しますが、複数回の試行が必要です。
- カメラのプリセットは、リモートでトリガーされたときに一貫してアクティブ化できません。
- Vegaトレースバックエラーは、事前に設定されたリモートアクティベーション試行中にデバイスログに表示されます。

RoomOS 11.38を実行しているデバイスでも、同じリモートカメラプリセット機能が正しく動作します。タッチパネルからのローカルカメラのプリセットコントロールは、影響を受けるすべてのデバイスで正常に機能し続けます。

環境

- RoomOS 26.6.1.4およびRoomOS 26.7を実行するCisco Codec Proデバイス
- RoomOS 26.6およびRoomOS 26.7を実行しているCisco Room Bar Proデバイス
- クラウドに登録されたWebex Roomデバイス

- カメラプリセットが設定されているデバイス
- デバイス設定でリモートカメラコントロール/FECCが有効
- リモートアクセスによる手動カメラ制御（パン/チルト/ズーム）機能を通常搭載

解決方法

この問題は、リモートカメラのプリセットコントロール機能に影響を与えるRoomOS 26.6および26.7のソフトウェアの不具合が原因で発生します。この問題は、Cisco Bug ID CSCwv66083で確認および追跡されています。

一時的な回避策

ソフトウェアの修正を待っている間、リモートカメラプリセット制御に次の回避策を使用できます。

開発者APIインターフェイスからxCommand APIコマンドを使用します。

```
xCommand Camera Preset Activate presetid: 1
```

予想される正常な出力：

```
OK
*r PresetActivateResult (status=OK):
** end
```

追加のプリセットの場合：

```
xCommand Camera Preset Activate presetid: 2
```

注:xCommandによる回避策は、複数回試みる必要があり、通常の操作と比較して実行に時間がかかる場合があります。デバイスのタッチパネルからのローカルなプリセットコント

ロールは完全に機能し、代替手段として使用できます。

確認手順

カメラのプリセット機能を確認するには：

ステップ1：使用可能なカメラプリセットをリストします。

```
xCommand Camera Preset List
```

ステップ2:タッチパネルからローカルでプリセットのアクティベーションをテストします。

デバイスのタッチパネルに移動し、手動でカメラプリセットをアクティブ化して、ローカル機能を確認します。

ステップ3:リモートプリセット試行中にデバイスログを監視します。

リモートプリセット制御を試行する際のvegaトレースバックエラーについて、Messages.logファイルを確認します。

ログ分析の結果

影響を受けるデバイスでは、リモートプリセットのアクティベーション時にMessages.logに次のエラーパターンが表示されます。

```
vega[1073]: Error at 2026-07-22 14:51:58.933650
vega[1073]: Traceback (most recent call last):
vega[1073]:   File "/run/mnt/web/vega/vega/wsgi/exception.py", line 43, in __call__
vega[1073]:     return self.app(environ, start_response)
vega[1073]:   File "/run/mnt/web/vega/vega/webapi/tsh.py", line 92, in action_config
vega[1073]:     data['id'] = path
vega[1073]: TypeError: list indices must be integers or slices, not str
```

RoomOS 11.38を実行している作業デバイスでは、プリセットが正常にアクティブ化され、エラ

ーは表示されません。

```
main[2705]: CuilApp[1]: User admin/web/vega about to execute command '/Camera/Preset/Activate PresetId:
main[2705]: CuilApp[1]: Successfully changed configuration '/Video[1]/Configuration[1]/Camera[1]/SavedP
```

原因

この問題は、RoomOS 26.6および26.7のvega Webアプリケーションコンポーネントのソフトウェアバグが原因で発生します。この不具合は、Webインターフェイスおよび開発者APIを介したリモートカメラプリセットコントロールに使用されるJavaScriptフィルタ機能に影響を与えます。TypeErrorは、カメラプリセットのアクティブ化処理中に、コードがリストオブジェクトに対して文字列インデックスを使用しようとすると発生します。

この問題を追跡するために、Cisco Bug ID CSCwv66083（登録ユーザ専用）が公開されています。この不具合は、リモートカメラプリセット機能に影響しますが、ローカルのタッチパネルコントロールには影響しません。

関連コンテンツ

- Cisco Bug Search - Cisco Bug ID CSCwv66083
- シスコのテクニカルサポートとダウンロード

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。